

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果

## 京都市立御所南小学校

4月19日に、本校6年生206名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での生活習慣や家庭学習への取り組み方、また児童の自尊感情や学習に対する意識を問う調査も実施されています。2教科のテストの結果とともに、本校で重点的に取り組んでいることと学力の関連や、家庭生活と学力との関連などについて分析をしました。今回、その概要を本校の子どもたちの状況としてお伝えします。

### 総合結果（国語・算数）

国語A・B、算数A・Bの全ての調査で全国平均を上回る良好な結果でした。主として知識理解を問う国語・算数のA問題よりも、主として活用する力を問う国語・算数のB問題において、全国平均を大きく上回っており、文章で答えることや、問題に書かれた内容（文章・図・グラフなど）を関連付けて考えることに対して、高い力をつけていることがうかがえます。

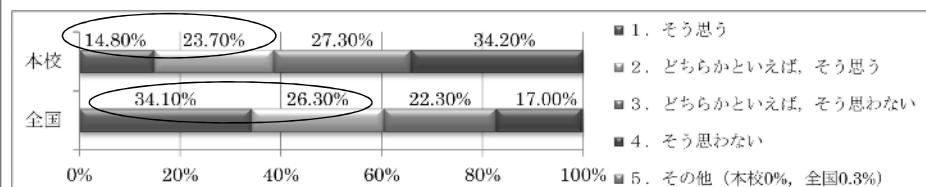
### 国語科の調査と児童質問紙の関連項目より

国語科の調査全般で良好な結果を残しています。特に、A問題、B問題ともに「書く能力」を問う問題で高い正答率になっており、全国平均を大きく上回っています。感想文や意見文など様々な表現様式の特長を知り、決められた文字数で書いたり、コンパクトに自分の思いや考えを書いたりすることをどの授業においても意図的に取り入れて取り組んでいます。また、家庭学習では、与えられたテーマや文字数に応じて書く課題に取り組むようにもしています。このような取組を継続的に行うことで、書くことに対する抵抗感が少くなり、常に相手意識と目的意識をもって書くことができるようになってきていると思われます。また、様々なジャンルの本をたくさん読むことは、語彙を増やしたり、文章の組立てを捉えたりすることに役立ち、読む能力だけでなく書く能力を育成することと深く関連しています。本校では、読書活動を各教科・領域や日常生活の中に位置付け、各学年の発達段階に応じて行い、読書量や読書時間の確保につなげています。これらのこと、今回の良好な結果に結び付いていると考えます。今後はさらにジャンルの幅を広げ、読書から多くのことを学んでほしいと思います。

「言語についての知識・理解・技能」においては、全国平均を上回ってはいるものの漢字の書き取りやローマ字の読み書きでミスが見られました。基本的な言語に関する知識の定着が課題として挙げられます。習得した知識を活用することを通して、より高い定着を目指していきたいです。

### 国語科と関連のある児童質問紙の項目と本校の結果

質問番号（57）「400字詰め原稿用紙2~3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか？」



質問番号（64）「読書は好きですか？」



### 算数科の調査と児童質問紙の関連項目より

算数科の調査問題においても、全般的に良好な結果が出ています。特にB問題では、全国平均や京都府の平均を大きく上回っており、習得した知識や技能を活用する力が付いていると言えます。問題解決に必要な情報を問題の文章からだけでなく、図やグラフ、表などから取り出し、それらを関連付けて考えなくてはいけませんが、そこで発揮されるのが本校で取り組んでいる「読解力」です。テキストを読んで、そこに書かれた情報を整理・分析し、自分の考えをつくり出す学習の積み重ねが、算数科B問題の結果となって表れていると思います。また、問題形式別に見ると記述式の問題において大きな成果が見られます。根拠を明らかにし、自分の考えを言葉や式、図などを用いて記述し、相手に分かりやすく筋道立てで説明したり、友達との話し合いを通じて思考の変容や深化が見えるようにノート記述を工夫したりする取組を授業の中で意図的に設定しています。これらの取組が、結果に結び付いていると考えています。



### 算数科と関連のある児童質問紙の項目と本校の結果

質問番号（79）「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか？」



質問番号（80）「算数の授業で問題の解き方や考え方方が分かるようにノートを書いていますか？」



### 全体を通して

国語科、算数科ともに記述式を多く含むB問題において良好な結果が出ていることは、本校の国語科、算数科をはじめとした学習全般を包括する読解力育成の取組の大きな成果であると捉えています。自分の考えたことを、根拠を明らかにしながら筋道立てで記述する力は、ドリル的な反復練習で身に付く力とは違い、テキストを読んで取り出した必要な情報や習得した知識を統合して考えていく活用的な学力です。これは、一朝一夕につけていくことはできません。6年間の系統的な取組の積み重ねの結果、身に付くものであると考えています。今後も、学校総体として子どもたちの学力向上を目指して日々の授業づくりに取り組んでいきたいと思います。活用する力のベースとなる言語や数量、図形に関する知識については、より確実に身に付くよう学習方法や指導に生かすための評価方法を工夫して進めていきたいと思います。

### 保護者の皆様へ

今回、学校の取組と調査結果の関連について分析し、お知らせしておりますが、学力は学校だけの力でつくものではなく、子どもたちを見守り、育てようとする、学校・家庭・地域での地道な取組の積み重ねにより定着していくものであると考えています。望ましい生活習慣や日々の学習習慣が学力向上の土台であることは間違ひありません。児童質問紙における家庭生活に関わる項目の集計からも、各家庭での努力、支えがあってこそ、本校の子どもたちは今回の結果を出すことができたのだと思える結果が多くありました。今後とも子どもたちの健やかな育ちと学校・家庭・地域が一体となった学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。